

1. 頼り合える社会～誰もが自分らしく生きるために（地域共創）
 お互いの信頼を基本として、支え支えられ住みやすい地域を創る。



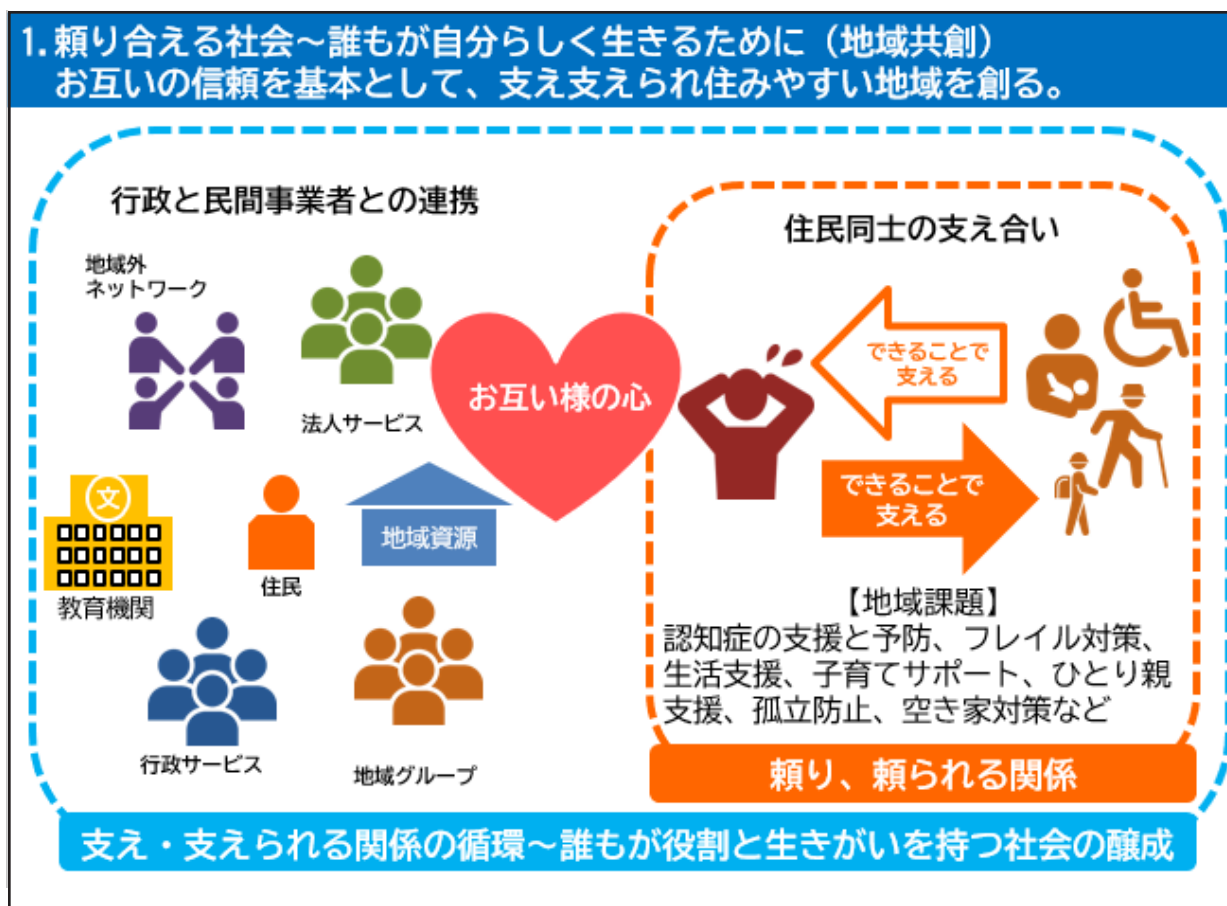
1. 頼り合える社会

【基本的な考え方】

2040年に向けて、生活上の困難を抱える方が自立した生活を送ることができるよう、公的支援と民間サービスが連動し包括的な支援体制を構築する必要があります。また、住民のお互いの支え合いが十分に機能するような仕組みも大切です。

そのためには、地域の歴史や文化を踏まえ、それぞれの地域特性にあった仕組みを、行政と事業者、福祉活動を行っている住民により共創していくことが求められています。そのための情報共有と連携が不可欠です。地域の中に「お互いを知る」仕組みを誕生させ、定着させていくことを進めていくことが重要です。こうした取り組みの中で、人と人との交流を生み、地域の行事や福祉活動に関心を持ち、頼り、頼られる関係を構築していく必要があります。

住民同士の支え合い活動の活性化、行政と民間事業者との連携、認知症対策、フレイル対策、生活支援、孤立防止、空き家対策などの施策を総合的に推進し、ともに生きる社会（共生社会）の実現を目指します。

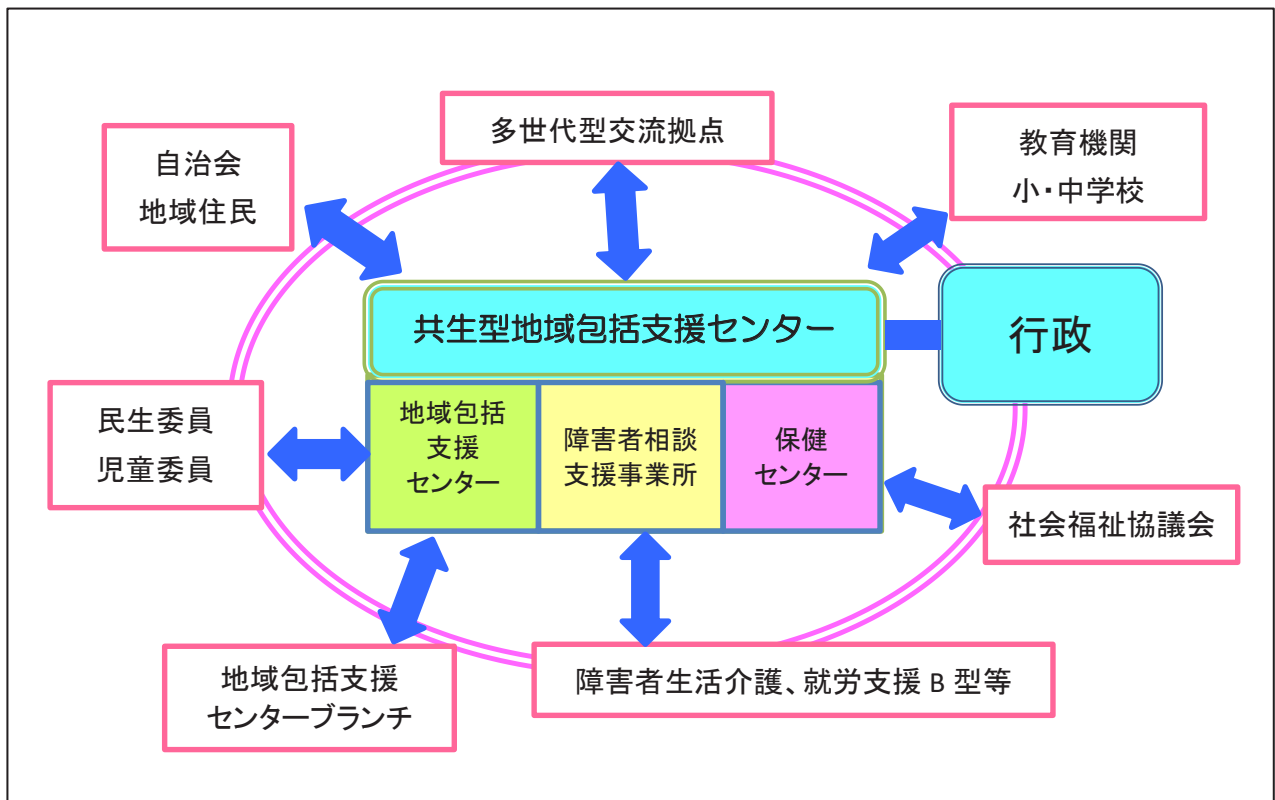


施策1 共生社会実現に向けた公民連携ネットワークの構築



地域包括支援センターを核として、障害、母子保健・成人保健の機能を統合し、共生型地域包括支援センターを設置し、住民からの様々な相談にワンストップで対応する体制を整備する必要があります。

住民の複雑・高度化したニーズに対応するために、共生型地域包括支援センター職員向けの研修を実施し、地域づくりに向けた人財育成や社会資源を活用するための情報プラットフォームを整備します。また、共生型地域包括支援センターに生活困窮、児童、障害、教育委員会との連携機能を持たせるための支援を行います。



施策2 児童の健全育成指導者の養成



教職員OBや大学生、企業経営者を講師に迎え、児童の健全育成のためのカリキュラムを作り、地域ぐるみで児童の健全育成ができるよう、関係機関と連携して指導者を養成します。

施策3 フレイル予防と健康寿命延伸の施策



1. 繋り合える社会



2. 生活サービス



5. プラットフォームビルダー

人生100歳時代を迎え、いつまでも元気で生活できるよう、健康寿命の延伸に関する政策が重要になっています。市町村によるフレイルチェック等の施策の充実とともに、民間の創意工夫を活かし、新しい商品開発や販売促進につながる仕組みを検討し、フレイル予防産業の振興を図るために、フレイル予防・生活支援情報提供システム構築を推進します。

また、高齢者の健康寿命を延伸するためには、社会参加活動を継続する場と仲間が必要となります。そこで、同級生や同じ趣味等を持つ人々を対象に、健康をテーマとした合宿（キャンプと呼ぶ）を年に数回実施し、参加者には合宿後に地域に戻り、健康づくりに関する指導者になって活動の輪を広げる取り組みを推進します。

こうした事業は、これまでも市町村が主体となって実施してきた経緯もありますが、民間活力を導入し、フレイル予防産業の振興施策とも連携しながら実施することにより政策効果を高めます。フレイル予防に関する商品やサービスを見える化し、消費者が自分の好みに合った商品やサービスを選ぶことのできるフレイル予防・健康づくりプラットフォームの構築に向けた施策を推進します。



1. 繋り合える社会



3. 共にある心



4. 人と地域を育てる



5. プラットフォームビルダー

施策4 持続可能な地域づくり

県内に所在する空き家（部屋）、空き店舗、廃校など、地域において活用されていない社会資源を再生し、持続可能性のある地域づくりを進めるための政策を推進します。例えば、空き家を高齢者が集うサロンとして活用することにより、高齢者の健康増進に役立てるとともに、近隣の住民同士のつながりをつくり、お互い様の心を養うことが出来ます。

また、関係機関と連携して空き家活用事業を推進し、地域サロンの開設支援とともに、住民が交流できる事業の企画立案及び実施できる人材を養成します。

